
第2章 分析ツールの事業効果検証への活用

本章では、2018年5月に開催された「ANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会」を事例として、分析ツールを活用した事業効果の検証方法を説明する¹⁶。具体的には、まず、アンケート調査結果から宿泊客・日帰り客数と費目別消費単価を推計する。次に、開催経費および来場者消費額（会場内・会場外）の経済波及効果を分析する。そして、経済波及効果の観点から見た大会の課題を指摘する。最後に、大会の課題が改善された場合に、経済波及効果がどのくらい増加するのか、シミュレーションを行う。

1 大会概要

本大会の概要は以下のとおりである。

(1) 開催期間

2018年5月10日（木）から5月15日（火）（6日間）

(2) 会場

津久井浜海岸

(3) 来場者数

49,482人（6日間の延べ人数）

※2017年大会は約33,000人（6日間の延べ人数）

2 アンケート調査概要

大会期間中に実施されたアンケート調査の概要は以下のとおりである¹⁷。

(1) 調査組織

研究代表者：名桜大学 教授 平野貴也

共同研究者：広島経済大学 准教授 岡安功、東海大学 准教授 合志明倫

調査協力者：名桜大学 学生（2名）、東海大学 学生（2名）

(2) 調査日

2018年5月11日（金）から5月13日（日）（3日間）

¹⁶ 大会開催の効果検証に当たり、名桜大学の平野貴也教授からアンケート調査結果のデータをご提供いただいた。ここに記して感謝の意を表す。

¹⁷ 「2018 ウインドサーフィン・ワールドカップ横須賀大会 調査報告書」に基づく。

(3) 調査方法

自己記入式質問紙法

(4) 回収結果

配布数：560

回収数：531

有効回答数：477

有効回答率：89.8%

3 宿泊客・日帰り客数の推計

宿泊客・日帰り客数は、アンケート調査結果から両者の割合を算出し、来場者総数(49,482人)にこれに乗じて推計した。その結果は図表 2-1 のとおりである。

図表 2-1 宿泊客・日帰り客数の推計

(単位：人、%)

	アンケート調査結果		来場者数 (推計)
	人数	割合	
宿泊客	18*	3.9	1,940
日帰り客	441	96.1	47,541
合計	459	100.0	49,482

※横須賀市内に複数泊した者を含む。市外泊など 22 サンプルは分析から除外した。

※端数処理の関係上、合計と一致しない場合がある。

図表 2-1 から、宿泊客の割合はわずか 4 %程度であり、来場者のほとんどが日帰り客であることが分かる。実際に、有効回答数(477)のうち約 83% (396) が神奈川県に居住しており、約 95% (456) が首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、茨城県、山梨県)の居住者である。

なお、横須賀市内に複数泊した場合には、その泊数を宿泊客数としてカウントした。また、宿泊先として市外にあるホテルや旅館、市内の実家・友人宅などと記入した 22 サンプルについては、事前に分析から除外した。

4 費目別消費単価の推計

費目別消費単価は、宿泊客・日帰り客ごとに、アンケート調査結果から各費目の合計金額を求め、3 で推計した宿泊客・日帰り客数で除することにより推計した。推計結果は、図表 2-2 のとおりである。

図表 2-2 費目別消費単価の推計

(単位：円)

費目	会場内		会場外	
	宿泊客	日帰り客	宿泊客	日帰り客
交通費			4,544	667
宿泊費			8,213	—
飲食費	1,397	1,294	2,750	393
土産・買物代	1,754	728	1,335	90
入場料・娯楽費・その他	56	246	2,150	174

図表 2-2 より、宿泊客の消費単価は、土産・買物代を除いて会場内よりも会場外の方が高くなっている。一方で、日帰り客については、いずれの費目の消費単価も会場外より会場内の方が高くなっている。このことから、宿泊客は、会場内で大会グッズなどを購入するものの、飲食や娯楽は主に会場外の観光施設などで行っていることが推察される。また、日帰り客は、主に会場内で支出し、市内の観光施設などではさほど支出していないものと思料される。

5 開催経費

本市政策推進課の積算（2018年6月時点）によると、大会の開催経費は約1億3,464万円であった。

6 来場者消費額の推計

別途推計した宿泊客・日帰り客数に費目別消費単価を乗じて、会場内・会場外の来場者消費額を推計した。その結果は、図表 2-3 のとおりである。

来場者消費額についても、図表 2-2 と同様の傾向を指摘することができる。

図表 2-3 来場者消費額の推計

(単位：千円)

費目	会場内		会場外	
	宿泊客	日帰り客	宿泊客	日帰り客
交通費			8,816	31,733
宿泊費			15,933	—
飲食費	2,711	61,497	5,335	18,670
土産・買物代	3,403	34,589	2,591	4,284
入場料・娯楽費・その他	108	11,680	4,171	8,266

7 経済波及効果の分析

経済波及効果は開催経費、来場者消費額（会場内）、来場者消費額（会場外）ごとに分析した。なお、開催経費の経済波及効果は観光・イベントツールⅠ、来場者消費額（会場内）、来場者消費額（会場外）の経済波及効果は観光・イベントツールⅡを活用して分析した。

（1）開催経費

開催経費の経済波及効果は、直接効果 19,410 千円、第一次間接波及効果 6,891 千円、第二次間接波及効果 4,278 千円であり、総合効果 30,579 千円であった。

（2）来場者消費額（会場内）（宿泊客・日帰り客別、費目別）

来場者消費額のうち会場内の経済波及効果は、図表 2-4 のとおりである。

図表 2-4 来場者消費額（会場内）の経済波及効果（宿泊客・日帰り客別、費目別）

（単位：千円、％）

費目	宿泊客		日帰り客	
	経済波及効果	割合	経済波及効果	割合
飲食費	3,248	45.1	73,677	57.5
土産・買物代	3,793	52.7	37,695	29.4
入場料・娯楽費・その他	156	2.2	16,752	13.1
合計	7,196	100.0	128,124	100.0

※端数処理の関係上、合計と一致しない場合がある。

図表 2-4 から、いずれの費目についても、宿泊客の経済波及効果は日帰り客より圧倒的に少ないことが分かる。これは図表 2-1 で示したとおり、来場者のほとんどが日帰り客であり、宿泊客の割合が低いことに起因している。また、宿泊客の経済波及効果のうち最も割合の高い費目は土産・買物代である一方で、日帰り客では飲食費の割合が最も高くなっており、それぞれ過半数を占めている。そして、宿泊客・日帰り客ともに、入場料・娯楽費・その他の割合はわずかとなっている。

（3）来場者消費額（会場外）（宿泊客・日帰り客別、費目別）

来場者消費額のうち会場外の経済波及効果は図表 2-5 のとおりである。会場内の場合と同様、宿泊客の経済波及効果は日帰り客よりも大幅に低いことが分かる。特に、交通費と飲食費においてその傾向が顕著である。また、宿泊客の経済波及効果のうち最も高い割合の費目は宿泊費である一方で、日帰り客では交通費の割合が最も高くなっている。さらに、宿泊客・日帰り客ともに、土産・買物代の割合はわずか 5 %程度となっている。

図表 2-5 来場者消費額（会場外）の経済波及効果（宿泊客・日帰り客別、費目別）

（単位：千円、％）

費目	宿泊客		日帰り客	
	経済波及効果	割合	経済波及効果	割合
交通費	10,175	18.4	35,572	42.0
宿泊費	26,739	48.4	—	—
飲食費	9,244	16.7	32,352	38.2
土産・買物代	2,946	5.3	4,772	5.6
入場料・娯楽費・その他	6,090	11.0	11,990	14.2
合計	55,194	100.0	84,686	100.0

※端数処理の関係上、合計と一致しない場合がある。

（４）経済波及効果（合計）

以上から、大会開催の経済波及効果は、合計で 305,779 千円となる（図表 2-6 参照）。

図表 2-6 大会開催の経済波及効果

（単位：千円）

	開催経費	来場者消費額 （会場内）	来場者消費額 （会場外）	合計
経済波及効果	30,579	135,320	139,880	305,779

8 費用対効果

本報告では、開催経費に対する経済波及効果を大会開催の費用対効果と考える。そうすると、開催経費 134,640 千円に対して経済波及効果 305,779 千円であるから、費用対効果は 2.27 倍となる。

9 経済波及効果から見た大会の課題

観光・イベントツールⅡでは、宿泊客・日帰り客別かつ費目別に経済波及効果を分析することが可能となっている。そのため、経済波及効果の観点から、宿泊客・日帰り客のいずれの費目に課題があるのかを把握することができる。

まず、会場内の経済波及効果のうち土産・買物代に着目すると、宿泊客では全体に占める割合が 52.7%であるのに対し、日帰り客では 29.4%と低くなっている（図表 2-4 参照）。日帰り客の土産・買物代の経済波及効果は、図表 2-5 のとおり、会場外においても全体の 5%程度となっているため、日帰り客に対しては、会場内外を問わず市内で土産を購入したり買物をしたりする動機付けが働いていないものと推察される。したがって、今後は、例えば日

帰り客に対して会場内での土産購入を促す施策や、会場近隣の観光施設などへの回遊性向上を図る施策などを実施していくことが考えられる。

次に、来場者に占める宿泊客の割合は3.9%となっていることから（図表2-1参照）、経済波及効果を増加させるためには、この割合を上昇させていくことも1つの方策となる。図表2-7・図表2-8・図表2-9・図表2-10で示したとおり、宿泊客1人当たりの経済波及効果は、会場内外を問わず、ほとんどの費目で日帰り客のそれを上回っている。そのため、今後の方向性としては、大会会場と市内の観光施設などとの導線を確認して来場者の滞在時間を増加させるなどにより、宿泊客の割合を高める施策を実施していくことが考えられる。その際、市内での宿泊が特に期待される首都圏以外の居住者に対して、本大会の開催をどの様に周知していくのかを検討する必要がある。

図表 2-7 会場内の1人当たり経済波及効果（宿泊客、費目別）

（単位：千円、人）

費目	経済波及効果 (宿泊客分)	宿泊客数	宿泊客1人当たり 経済波及効果
飲食費	3,248	1,940	1.67
土産・買物代	3,793		1.96
入場料・娯楽費・その他	156		0.08
合計	7,196	—	3.71

※端数処理の関係上、合計と一致しない場合がある。

図表 2-8 会場内の1人当たり経済波及効果（日帰り客、費目別）

（単位：千円、人）

費目	経済波及効果 (日帰り客分)	日帰り客数	日帰り客1人当たり 経済波及効果
飲食費	73,677	47,541	1.55
土産・買物代	37,695		0.79
入場料・娯楽費・その他	16,752		0.35
合計	128,124	—	2.70

※端数処理の関係上、合計と一致しない場合がある。

図表 2-9 会場外の 1 人当たり経済波及効果（宿泊客、費目別）

(単位：千円、人)

費目	経済波及効果 (宿泊客分)	宿泊客数	宿泊客 1 人当たり 経済波及効果
交通費	10,175	1,940	5.24
宿泊費	26,739		13.78
飲食費	9,244		4.76
土産・買物代	2,946		1.52
入場料・娯楽費・その他	6,090		3.14
合計	55,194	—	28.45

※端数処理の関係上、合計と一致しない場合がある。

図表 2-10 会場外の 1 人当たり経済波及効果（日帰り客、費目別）

(単位：千円、人)

費目	経済波及効果 (日帰り客分)	日帰り客数	日帰り客 1 人当たり 経済波及効果
交通費	35,572	47,541	0.75
宿泊費	—		—
飲食費	32,352		0.68
土産・買物代	4,772		0.10
入場料・娯楽費・その他	11,990		0.25
合計	84,686	—	1.78

※端数処理の関係上、合計と一致しない場合がある。

10 シミュレーション

7種類の分析ツールのうち観光・イベントツールⅡでは、宿泊客・日帰り客数や費目別消費単価が現状よりも増加した場合に、経済波及効果がどのくらい増加するのかをシミュレーションすることができる。先述したとおり、経済波及効果から見た大会の課題としては、会場内外における日帰り客の土産・買物代の経済波及効果が小さいこと、また、来場者に占める宿泊客の割合が低いことが挙げられる。そこで、以下では、これら2つの課題が改善された場合に経済波及効果がどのくらい増加するのか、シミュレーションを行う。

(1) 会場内外において日帰り客の土産・買物代の消費単価が増加した場合¹⁸

シミュレーション結果は、図表 2-11 のとおりである。例えば、会場内外で消費単価が 1,000 円ずつ増加した場合には、経済波及効果が合計で約 1 億円増加すると試算される。

図表 2-11 日帰り客の土産・買物代の消費単価が増加した場合の経済波及効果の増加額

(単位：千円)

	土産・買物代の消費単価の増加額				
	100 円	250 円	500 円	750 円	1,000 円
会場内	5,181	12,953	25,905	38,858	51,810
会場外	5,296	13,239	26,478	39,716	52,955
合計	10,477	26,192	52,383	78,574	104,765

(2) 日帰り客の一部が宿泊客に置き換わった場合¹⁹

シミュレーション結果は、図表 2-12 のとおりである。この結果から、例えば現状の日帰り客 47,541 人の 5% に相当する 2,377 人 ($=47,541 \times 0.05$) が日帰り客から宿泊客に置き換わった場合には、経済波及効果が合計で約 6,600 万円増加すると試算される。

図表 2-12 日帰り客の一部が宿泊客に置き換わった場合の経済波及効果の増加額

(単位：千円)

	日帰り客から宿泊客への転換割合				
	1 %	2 %	3 %	4 %	5 %
会場内	482	964	1,447	1,929	2,411
会場外	12,679	25,358	38,036	50,715	63,394
合計	13,161	26,322	39,483	52,644	65,805

¹⁸ 宿泊客・日帰り客数は現状と同じであると仮定している。

¹⁹ 宿泊客・日帰り客の費目別消費単価は現状と同じであると仮定している。